

平和大使レポート



7月13日 田無庁舎出発式

公募により選ばれた平和大使は、広島派遣の前に2日間の事前学習会を実施しました。

学習会では、被爆者の手記をもとに「もし自分がその場にいたら?」「被爆者はどのような気持ちだったか?」などを考察。戦前・戦中・戦後の地図をもとに、「まちがどのように変化したか?」などを比較し、グループで意見交換をしながら理解を深めました。

8月5日～7日に実施した広島の旅については、市HPで紹介しています。



詳細および今後の活動報告はこちら

市HP



インタビュー

事前学習会を終えて、改めて思う「平和」についてお聞きしました。

Q1 なぜ、平和大使に応募しましたか?

Q3 いま、自分ができることは何だと思いますか?



堀さん 中学2年生

A1 アメリカに住んでいたことがあり、友だちから「日本に原爆を落としたのは正解だった」といわれました。それまで平和や原爆や戦争について深く考えたことがなかったので、本当にその考えが正しいのか、何があったのか、被害の状況を知ってもそう思えるのかを確かめたかった。

今の自分ではそれを判断する知識が足りないと思ったので、実際に話を聞いて、自分の目で被害のあった地を見てみたくて応募しました。

A2 同世代との意見交換ができたこと。

平和な世界を達成するために、何をすべきかなどは、それぞれの意見があって、いろいろな見方があることは勉強になった。今まで自分が思ったことがないことも多かった。

また、平和は大事だとみんなが思っていると思っていたが、「人はどうしても対話や関係を持つ中でトラブルが生まれる。完全な世界平和ができない。でも、自分たち一人ひとりの力で、その争いは減らせる」という意見などはとても驚いたし、改めてそうだとも思った。

A3 学校で習わないことは、学校以外での学習の機会を増やして、たくさんを知ること、体験すること。幅広くいろいろ知って大事だから。そこで学んだことを周りに伝えること。

自分の言葉で伝えることで、平和の大事さを一緒に共有していけるといいなと思う。

A4 興味がないように見えても、そのことについて知らないだけかも。特に同世代は、興味を持っている人が周りの友だちを誘って参加するのがいいと思う。みんなで知って考えることが、いろいろな考えを知ることができて大事だから。少しずつ、どんどん影響の輪を広げる感じ。

Q2 事前学習会で印象に残ったことは?

Q4 同世代の人に「平和」について興味を持ってもらうにはどうしたらいい?



鈴木さん 中学2年生

A1 最近、世界での争いのニュースを目にすることが多く、今年に入ってから、テレビ番組やニュースで日本が戦後80年を迎えるという特集などをみて興味を持ちました。

もともと市のイベントには積極的に参加したいと思っていて、いつも学校からの配布物や市のホームページでみてチェックしています。今回、80年記念事業で平和大使を募集していて、広島にも行けると書いてあったので、80年という機会に、ちょうど興味があつたのでぜひ参加したいと思って応募しました。

A2 2回目の地図のワーク。3つの年代を比べると明らかにまちが変わっていて、変わる様子を地図から想像することができた。地図に、表記する・しないも戦争などにより左右されるんだと知って、驚いた。

A3 歴史を後世に伝えたいと思う。そのためには、正しい知識を知る必要があるし、自分で本当のことを学ぶことが必要だと思う。どんどん、昔のことを聞ける人も少なくなるので、聞く場に参加して、それを伝えられるような大人になりたい。

ぼくは中学校の教員を目指していて、自分がする授業でも平和の大切さなどに触れたいと思う。数学だから数学だけを教えるのではなく、常にいろいろな発言で平和の大事さや歴史を伝えることが大事だと思う。

A4 その子の好きなことにからめるのがいいと思う。数学が好きな子には、数字をしっかりからめて伝える内容だと、興味が出る。歴史が好きな子には歴史だし、美術が好きなら好きな部分から入れるようにすればいいと思う。興味がある工夫がされていれば、楽しい。

ぼくは、理科と数学、技術(プログラミングなど)が好きなので、今回の学習会では数字でみたり、2つを比べて違いを見つけたりしたので、とても楽しかったから。

西東京市民映画祭2025 平和映画祭

会場 タクトホームこもれびGRAFAREホール

令和7年は、戦後80年の節目の年です。戦争の悲惨さ、平和の大切さを伝えるため、「平和映画祭」を開催します。

9/14(日)

■「戦後80周年平和大使派遣事業(中高生)」参加者報告会
時午後1時(開場:0時30分)

■「ひめゆり」上映 時午後2時

太平洋戦争末期、激戦が繰りひろげられた沖縄で、14～19歳の女学生たちが戦場に駆りだされ、看護活動に従事した末に多くが命を落とした。「ひめゆり学徒隊」の真実に迫ったドキュメンタリー。
監督:柴田昌平さん



©プロダクション・エイシア

■柴田昌平監督トークショー
時午後4時30分

9/15(祝)

■「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」上映

時午前11時
(開場:10時30分)
先の大戦の戦争体験者が語る西東京の戦災と指田吾一作「原爆の記」をアニメ化した作品。



■大須賀ひでき平和祈念コンサート 時午後4時
ゲスト:山崎巖さん 「原爆の記」朗読

■「母と暮せば」上映 時午後1時30分

小説家・劇作家の井上ひさしが、広島を舞台にした自身の戯曲「父と暮せば」と対になる作品として実現を願いながらもかなわなかった物語を、日本映画界を代表する名匠・山田洋次監督が映画化。



©2015「母と暮せば」製作委員会

申 申込フォームから

□主催 西東京市民映画祭実行委員会

※各日先着500人

□共催 非核・平和をすすめる西東京市民の会、協働コミュニティ課



申込フォーム

▶協働コミュニティ課

☎042-420-2821

西東京市の
人口と世帯
総人口

20万6,740人(↑ 76)

住民登録:令和7年8月1日現在

人口/20万6,740人(↑ 76)〈6,722人〉 男/10万318人 (↑ 40)〈3,587人〉
世帯/10万3,794 (↑ 73)〈4,240〉 女/10万6,422人(↑ 36)〈3,135人〉

※()は先月比 < >は外国人住民



公式
LINE



そのほか
公式SNS

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

